

建設業社会貢献活動事例集

平成20年度



はじめに

わが国経済は、景気が大きく後退局面に入り、製造業等を中心に、雇用不安が拡大するなど、日に日に厳しさを増しており、特に、米国発の金融市場の混乱は、百年に一度といわれる世界的金融危機に発展し、今後の先行きは全く不透明な状況にあります。

建設業界においても、長年にわたる公共事業費の削減による受注の減少、競争の激化に加え、ダンピング受注の頻発等による利益率の著しい低下、さらに、金融機関の融資姿勢の厳格化や不動産市況の低迷等により、地域を支えた老舗といわれる建設企業を含め、多くの会員企業が倒産・廃業に追い込まれる、かつてない厳しい状況が続いております。

このような状況下にもかかわらず、各都道府県建設業協会並びに地域の基幹産業である建設企業は、地域経済の活性化、雇用の確保に貢献するのみならず、国・地方自治体との災害協定に基づき、地震、台風、豪雨、豪雪等による災害発生時には、住民の安全・安心確保のため、二次災害も想定される厳しい条件の中で、不眠不休で応急復旧活動に取り組んでおります。

また、地域の環境保全のため、河川・道路・森林等の美化活動等に積極的に取り組むとともに、地域の各種イベントへの協力、安全パトロール活動等を通じて地域に根ざしたさまざまな取組みを実践し、地域社会に大きく貢献しております。

しかし、こうした地域建設業界の取り組みは、新聞・テレビ等のマスコミにおいて報道される機会も少なく、また、建設業界も必ずしも積極的にPR活動を行ってこなかったため、国民・社会から正しい理解と認識が得られていない状況にあります。

このため、本会では、毎年7月を、「建設業社会貢献活動推進月間」と定め、各都道府県建設業協会並びに会員企業と連携し、地域建設業界の実践している幅広い社会貢献活動を、国民・社会に広くアピールするとともに、公共事業への理解を深める活動を展開しております。

本事例集は、本会が平成20年度に実施した「建設業社会貢献活動推進月間中央行事」において顕彰した各建設業協会・支部並びに建設企業が行った優れた社会貢献活動を事例集として取りまとめたものであります。

本書が地域建設業界の取り組んでいる社会的責任（CSR）と、国民生活の安全・安心の確保のため、災害発生時には危険を省みず、日夜奮励している地域建設業界の真摯な社会貢献活動をご理解いただくとともに、欧米諸国に比べて脆弱な我が国の社会基盤の計画的・継続的な整備の必要性を認識いただく一助となれば幸甚であります。

平成21年3月

社団法人 全国建設業協会

目 次

1. 報告書の概要.....	1
2. 「建設業社会貢献活動推進月間」について.....	2
(1) 開催趣旨.....	2
(2) 行事の開催.....	2
(3) 功労者表彰.....	5
3. 社会貢献活動の事例 — 功労者表彰受賞者の活動事例から抜粋 —.....	7
3. 1 代表的な活動事例.....	7
(1) 岩手・宮城内陸地震による二次災害の回避(岩手県協会一関支部).....	7
(2) 地域に向けた各種イベントの開催(新潟県協会女性部会).....	9
(3) 「紀美野あさかわの森」による森林保護活動(株)浅川組.....	11
3. 2 協会・支部等の活動事例.....	13
(1) 災害復旧支援活動.....	14
(2) 防災支援活動.....	17
(3) 建設業ふれあい活動.....	19
(4) 環境美化活動.....	25
(5) 環境保全活動.....	30
(6) 社会福祉活動.....	32
(7) 建設業の啓蒙・イメージアップ活動.....	34
3. 3 会員企業の活動事例.....	35
(1) 災害復旧支援活動.....	36
(2) 防災支援活動.....	38
(3) 建設業ふれあい活動.....	39
(4) 環境美化活動.....	48
(5) 環境保全活動.....	49
(6) 社会福祉活動.....	50

参考 リーフレット「生活を守り まちをささえる建設業 Vol. 3」(縮小版)

1. 報告書の概要

近年、相次いだ食品偽装事件等で明らかなように、「企業の社会的責任」(CSR)が企業評価の重要な要素となり、各企業には経済的利益を追求するだけでなく、多様なステークホルダー(利害関係者)に対して、社会貢献、環境、法令遵守等の幅広い分野における社会的価値を重視し、企業の持続的な発展を図ることが求められています。

各都道府県建設業協会・支部・地区協会と各建設企業は、地域の基幹産業である建設業の社会的責任と使命を強く認識し、地域経済の活性化、雇用の確保に貢献するのみならず、国・地方自治体との災害協定に基づき、災害発生時には、住民の安全・安心を確保するため、不眠不休で応急復旧活動に取り組んでおります。

また、地域の環境保全のため、河川・道路・森林等の美化活動等に積極的に取り組むとともに、地域の祭りなど各種イベントへの協力、安全パトロール活動等を通じて地域に根ざしたさまざまな取り組みを実践し、地域社会に大きく貢献しております。

しかしながら、このような地域建設業界の取り組みは、マスコミ等において報道される機会も限られており、また、建設業界も必ずしも積極的にPR活動を行ってこなかったため、国民・社会から正しい理解と認識が得られていない状況にあります。

このため、本会では、平成18年度より毎年7月を「建設業社会貢献活動推進月間」と定め、各都道府県建設業協会と緊密な連携によりさまざまな社会貢献活動に取り組んでおります。

本会では、この月間の活動の一環として、各地域で実践されたさまざまな社会貢献活動を広く募集し、全建表彰規程に基づき厳正な審査を経て、優れた活動事例を功労者表彰として顕彰しております。

本書は、平成20年度の中央行事において、受賞された60事例の中から、当日、事例発表を行った岩手県建設業協会一関支部の岩手・宮城内陸地震における災害復旧活動、新潟県建設業協会女性部会の盲導犬お話し会と折り紙建築の活動、和歌山県の浅川組の「紀美野あさかわの森」森林保護活動の3事例を始め、代表的な活動事例を選び、分類・紹介します。

紹介事例は、各都道府県建設業協会・支部等の活動22事例、地方協会会員企業の活動17事例の二つに大別し、さらに、①災害復旧支援活動、②建設業ふれあい活動、③環境美化・保全活動、④社会福祉活動等のジャンルごとに整理し、国民生活の安全・安心の確保のため、災害発生時には危険を省みず、日夜奮励している地域建設業界の取り組み等、さまざまな社会貢献活動の内容を、「平成20年度建設業社会貢献活動事例集」として取りまとめたものです。

また、巻末には、この月間の開催に合わせて作成したリーフレット「生活を守り まちをささえる建設業 Vol. 3」(縮小版)を掲載しています。

2. 「建設業社会貢献活動推進月間」について

(1) 開催趣旨

地域の建設企業は、良質な社会資本整備の提供はもとより、災害時における応急復旧活動、河川・道路等の清掃活動、地域住民との交流など、さまざまな社会貢献活動を実践しています。しかしこうした取組みは、マスコミ等において報道される機会も少なく、必ずしも国民・社会から正しい理解と認識が得られていない状況にあります。

このため、本会では、毎年7月を、「建設業社会貢献活動推進月間」と定め、各都道府県建設業協会並びに会員企業と連携し、地域建設業界の実践している幅広い社会貢献活動を国民・社会に広くアピールするとともに、公共事業への理解を深める活動を展開しています。

平成20年度は、第3回目となる「建設業社会貢献活動推進月間中央行事」を7月30日に東京・経団連会館において開催し、また、各都道府県建設業協会・支部においても、災害復旧支援活動、環境美化活動等の各種イベントや社会奉仕活動等が実施されました。

(2) 行事の開催

平成20年度「建設業社会貢献活動推進月間」において、本会並びに都道府県建設業協会の開催した行事、実施した活動は次のとおりです。

○全国建設業協会の中央行事

行事名	建設業社会貢献活動推進月間中央行事
日時	平成20年7月30日(水) 14:00~19:00
場所	経団連会館 12階ダイヤモンドルーム
内容	(1) 開会 ・会長挨拶 (社)全国建設業協会会長 浅沼 健一 ・来賓ご挨拶 国土交通省建設流通政策審議官 小澤 敬市 氏 (2) 建設業社会貢献活動功労者表彰式 ①規定第3条関係(協会・支部等)功労者表彰(29件) ②規定第4条関係(会員企業)功労者表彰(31件) (3) 建設業社会貢献活動事例発表 ①(社)岩手県建設業協会一関支部 ②(社)新潟県建設業協会女性部会 ③(株)浅川組(和歌山県) (4) 記念講演会 『建設業のCSR(企業の社会的責任)について』 講師: 明治学院大学経済学部国際経営学科教授 神田 良 先生
参加者	約200名(国土交通省、都道府県建設業協会役員、建設関連団体及び一般関係者)

○都道府県建設業協会の開催した活動

協会名	活動内容	実施日	参加人数等
青森	県内の全ての小学校へ「こども 110 番」のDVD配布	7月10日	374校
宮城	①「全国建設青年の日」の県内統一事業として、青年部会主催による施工現場周辺の一斉清掃	7月28日	業界1,499人
	②広瀬川クリーンキャンペーン2008	7月28日	業界71人 自治体19人 一般13人
	③献血運動（仙南支部・栗原支部・協力会社）	7月4・5・11・23日	業界182人
福島	道路清掃（県下一斉）	8月8日	業界2,249人
千葉	「いなげの浜」清掃ボランティア	7月12日	業界240人 自治体10人
東京	①平成20年度防災展への協力	8月19～21日	業界・一般 40,000人
	②耐震改修工法展示会	9月3～4日	業界・一般500人
	③シンポジウム緑の東京の開催	9月25日	業界・一般300人
	④建設技術展示会2008の開催	9月28～30日	業界・一般 4,500人
岐阜	環境を守る建設業としての取組みの一環として「打ち水大作戦」の実施（県下一斉で実施）	8月11日	業界15,000人 一般300人
愛知	打ち水大作戦2008 インなごや広小路夏まつり	8月23日	
静岡	①道路・河川等環境美化活動（沼津・富士・清水・島田・袋井・浜松・天竜の7協会）	7月～8月	業界809人
	②親子現場見学会の開催（沼津・清水・静岡・島田・袋井・浜松・天竜の7協会）	7月～8月	業界・一般318人
	③高校生の現場実習（インターンシップ）の実施（沼津・静岡・清水・島田・袋井の5協会）	7月28日～ 11月5日	6校149人
	④富士教育訓練センターにて専門高校生サマー体験学習の実施	7月31日～ 9月12日	8校20人
	⑤献血運動（沼津）	7月8日	業界46人
	⑥「地域あんしん住まい応援隊」（清水）	9月12日	業界30人
三重	①環境美化活動（河川・道路清掃）（鈴鹿・津・尾鷲・一志・桑員・亀山・四日市・松阪・伊賀の9支部）	6月～12月	業界734人 自治体・一般 3,370人
	②スズカフェスティバルへ参加・協力	8月26日	業界10人
富山	「全国青年の日」事業として地域ボランティア活動を各支部で実施		
	①道路の美化活動（入善支部）	7月26日	青年部21人
	②海岸の美化活動（魚津支部）	7月5日	青年部他30人
	③河川の美化活動・稚魚の放流（立山支部）	7月29日	青年部25人 親子40人
	④イベント会場の整備（富山支部）	8月22日	青年部66人
	⑤講演会開催（砺波支部）	7月23日	青年部35人
	⑥流木除去ボランティア	7月28日	青年委員会他 20人
京都	みんなでまなぶ京都の建設・土木 トンネル体験にでかけよう	8月23日	業界6人 一般100人

協会名	活動内容	実施日	参加人数等
大阪	「親子現場見学会」の実施	7月29日	業界15人 親子17組
兵庫	夏休み工作大作戦（第2回建設ふれあい祭り）の開催	7月26日	業界100人 一般300人
鳥取	①ボランティア・ロード・コスモス（中部支部）	7月28日	業界21人
	②じげの川清掃（西部支部）	7月12日	業界・一般120人
	③「道の日」道路清掃（西部支部）	8月8日	業界120人
	④ボランティアロード砂丘（東部支部）	6月26日	業界・自治体 20人
	⑤日野川河川一斉清掃（日野支部）	8月7日	業界150人
島根	“ふるさと”まるごとクリーンアップ作戦 県下10支部による一斉清掃活動	7月30日	業界200人 自治体60人
香川	①河川・道路清掃（建築部会）	6月21日 8月1～20日 9月21日	業界520人
	②献血運動・道路清掃・チャリティー募金（高松支部）	6月19・20日 8月10日	業界270人
	③道路清掃・献血運動（善通寺支部）	5月13日 8月・11月・ 2月	業界200人 業界200人 業界100人
	④道路清掃・献血運動（西讃支部）	8月8日 11月	業界100人 業界80人
	⑤アユの稚魚放流・道路清掃（長尾支部）	5月10日 8月11日	業界80人
	⑥道路清掃・献血運動（小豆支部）	8月8日	業界220人
福岡	「勤マルの日」への参加・清掃活動	7月20日	業界167人
鹿児島	地元新聞に広告掲載（「お爺ちゃんは大工さん」、 「お父さんは現場監督」、「お母さんはトラックの 運転手」のタイトルで、子供目線による県内建造 物の紹介と、建設業を分かりやすい表現で紹介）	10月17日～ 19日	南日本新聞朝刊 (37万部発行) 五段広告3日間
沖縄	①沖縄総合事務局「災害復旧支援 防災訓練」への協力・参加	7月2日	業界400人 自治体100人
	②「飲酒運転根絶推進大会」を主催	7月22日	業界200人
	③「河川愛護月間における清掃活動」への参加（那覇支部）	7月27日	業界20人 一般100人 自治体100人
	④「道路植栽樹木美化活動」「道路ふれあい月間」 「牧港川クリーンアップ作戦」への参加（浦添・西原支部）	6月22日	業界257人
	⑤まるごと沖縄グリーンビーチ 2008 in 中城湾 港（中部支部）	7月17日	業界62人
	⑥河川・海岸愛護月間における清掃活動（北部支部）	7月17日	業界89人 一般19人 自治体15人
	⑦宮古地域農林水産海岸清掃（宮古支部）	7月14日	業界100人

※本会が実施したアンケート調査の回答をもとに取りまとめています。

(3) 功労者表彰

「建設業社会貢献活動推進月間」において、次に掲げる協会・支部等（29 団体）及び会員企業（31 社）が、建設業社会貢献活動功労者として表彰されました。

○功労者表彰受賞者 — 29 協会・支部等（規程第 3 条関係） —

表彰分類	受賞者（協会・支部等）	都道府県
災害復旧支援活動	(社)秋田県建設業協会 北秋田支部	秋田県
	(社)群馬県建設業協会	群馬県
	(社)新潟県建設業協会 柏崎支部	新潟県
防災支援活動	(社)岩手県建設業協会 一関支部	岩手県
	(社)栃木県建設業協会 日光支部	栃木県
	(社)兵庫県建設業協会 西宮支部	兵庫県
建設業ふれあい活動	(社)岩手県建設業協会 盛岡支部青年部	岩手県
	(社)金沢建設業協会 青年委員会	石川県
	(社)兵庫県建設業協会 青年部会	兵庫県
	(社)島根県建設業協会 浜田支部	島根県
環境美化活動	(社)能代山本建設業協会	秋田県
	(社)福島県建設業協会 石川支部	福島県
	(社)岐阜県西濃建設業協会	岐阜県
	(社)沼津建設業協会	静岡県
	(社)滋賀県建設業協会 甲賀支部	滋賀県
	(社)京都府建設業協会 綴喜支部	京都府
	(社)山口県建設業協会 宇部支部	山口県
	(社)徳島県建設業協会 鳴門支部	徳島県
	(社)徳島県建設業協会 徳島支部青年部	徳島県
	(社)熊本県建設業協会	熊本県
環境保全活動	(社)神奈川県建設業協会 県央支部	神奈川県
	(社)名古屋建設業協会	愛知県
社会福祉活動	(社)群馬県建設業協会 桐生支部	群馬県
	(社)長野県建設業協会 飯田支部代人会	長野県
	(社)三重県建設業協会 伊勢支部	三重県
	(社)京都府建設業協会 綾部支部	京都府
	(社)熊本県建設業協会 芦北支部	熊本県
建設業の啓蒙・イメージアップ活動	(社)新潟県建設業協会 女性部会	新潟県
	(社)山口県建設業協会	山口県

○功労者表彰受賞者 — 31 会員企業（規程第 4 条関係） —

表彰分類	受賞者（会員企業）	都道府県
災害復旧支援活動	東部産業(株)	神奈川県
	国土開発工業(株)	神奈川県
	(株)服部組	愛知県
	松陽建設(株)	兵庫県
防災支援活動	(株)山内組	宮城県
	(株)山田組	愛知県
	草津市市内業者協会	滋賀県
建設業ふれあい活動	飛島・勝村・地崎特定建設工事共同企業体	北海道
	宗谷建設青年会	北海道
	(株)柴田組	青森県
	熊谷建設(株)	岩手県
	清滝建設(株)	群馬県
	前田建設工業(株)	東京都
	肥海建設(株)	広島県
	極東興和(株)	広島県
環境美化活動	(株)北谷組	北海道
	小田島建設(株)	岩手県
	奥田建設(株)	宮城県
	(株)丸本組	宮城県
	エス・ケイ・ディ・成瀬産業建設共同企業体	神奈川県
	(株)イチテック	愛知県
	水野建設(株)	愛知県
	富士建設(株)	広島県
	(株)南九建設	大分県
環境保全活動	大岩産業(株)	神奈川県
	(株)浅川組	和歌山県
社会福祉活動	(株)櫻井組	北海道
	大和建设工業(株)	北海道
	(株)那須工業	岩手県
	(株)山善	神奈川県
	太啓建設(株)	愛知県

3. 社会貢献活動の事例 — 功労者表彰受賞者の活動事例から抜粋 —

3. 1 代表的な活動事例

ここでは、平成 20 年度に顕彰した活動事例のうち、代表的なものとして「建設業社会貢献活動推進月間中央行事」で事例発表された次の 3 事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部・企業名等	活動内容
A2-01	岩手県	(社)岩手県建設業協会 一関支部	岩手・宮城内陸地震による二次災害の回避
A7-01	新潟県	(社)新潟県建設業協会 女性部会	地域に向けた各種イベントの開催
B5-02	和歌山県	(株)浅川組	「紀美野あさかわの森」による森林保護活動

事例 A2-01：岩手県

岩手・宮城内陸地震による二次災害の回避（(社)岩手県建設業協会一関支部）

平成 20 年 6 月 14 日午前 8 時 43 分、岩手県内陸南部で M7.2 の強い地震が発生し、岩手県奥州市と宮城県栗原市で震度 6 強を観測した。この地震は、「平成 20 年岩手・宮城内陸地震」と名付けられ、震源に近い一関市や奥州市、栗原市などに大きな被害をもたらした。

栗原市の駒の湯温泉で発生した土石流で 5 人が犠牲になるなど、死者 13 人、行方不明 10 人を数え、家屋の全半壊は 140 棟に上った。

山間部では、各地で土石流や地すべり、がけ崩れが発生したため、道路は寸断され、橋梁の落下もみられた。また、河川に流れ込んだ土砂は河道閉塞（いわゆる「せき止め湖」）を引き起こし、二次災害の危険性が高まった。



岩手・宮城内陸地震の主な被災地



祭時（まつるべ）大橋の落橋



祭時（まつるべ）大橋付近の道路被害

岩手県建設業協会一関支部は、一関市や平泉町、岩手県と交わっていた「災害時における応急対策等協定」に基づき、地震直後から、被害調査、崩落土砂の撤去、道路の応急処置などを行っていた。

しかし、一関市内を流れる磐井川上流の市野々原地区に「せき止め湖」ができ、決壊する恐れが生じたことを知り、現地対策のための重機等の搬入路を早急に確保する必要があると考え、支部独自の判断で、国道の通行不能箇所を迂回する応急搬入路の建設に取り組んだ。経過は次のとおりである。



矢びつダム付近の土砂崩落

- 6月16日：地震発生から2日目。支部として「せき止め湖」への応急搬入路の検討作業を開始。現地に至る国道342号線の通行不能箇所周辺を地元業者4人で調査し、建設可能な迂回ルートを設定。支部判断で、即刻、地権者から道路建設の了解を取り付け、市の災害対策本部に経過報告。
- 6月17日：迂回ルートでの搬入路建設工事に着手。この間の経過について、市役所及び河川国道事務所一関出張所にて説明。一方で、「せき止め湖」の仮排水路建設について、支部会員32社が一致協力してこれに当たることを、内部で確認。支部が事前に把握していた各社の保有重機・工事用車両数をもとに、機材搬送計画を作成。夜半には、約250mの応急搬入路が完成。
- 6月18日：応急搬入路を通過して、「せき止め湖」付近に重機・排水ポンプ等を搬入。会員32社の重機オペレータと作業員をフル動員して、24時間体制のローテーションを組み、仮排水路建設工事を開始。
- 6月19日：市野々原で排水ポンプの稼働を開始。
- 6月21日：仮排水路が完成し、通水。「せき止め湖」の水位が下がる。

「せき止め湖」の決壊による二次災害を未然に防いだことは、全国のメディアでも大きく取り上げられ、一関支部に対しては、岩手県から感謝状が贈られた。



磐井川「せき止め湖」仮排水路建設工事



矢びつダム付近の道路復旧

地域に向けた各種イベントの開催（（社）新潟県建設業協会女性部会）

新潟県建設業協会女性部会は、21世紀における魅力ある建設業に向けて、女性のネットワーク化を図り、女性ならではの発想と感覚で諸活動を行うことを目的として、平成11年に設立された。現在、県下19支部で会員数387人を数えている。

以降、自己啓発と交流の場として、「研修会」や「講演会（総会）」等を実施するとともに、建設業のイメージアップ活動の一環として、「現場見学会」、「盲導犬お話し会」、「みんなで作ろう折り紙建築」などのイベントを開催して、地域の人々との交流を深めている。

■盲導犬お話し会

「身体障害者補助犬法」が平成14年5月に制定されたことをきっかけに、翌15年度より、県内の小学校・保育園を盲導犬と一緒に訪問して、「盲導犬お話し会」を開催している。これは、子供たちが障害者に対する理解を深めるとともに、「すべての人に優しいまちづくり」について考えてもらうことを目的とした活動である。

まず、自らが盲導犬について理解するため、東京の盲導犬訓練施設を訪問して、盲導犬の育て方等を勉強し、健常者にとって貴重な盲導犬との訓練を体験した。

そして、「新潟県盲導犬ユーザーの会」の協力を得て、「盲導犬お話し会」をスタートさせ、以降、毎年2～3校のペースで開催している。

「お話し会」では、盲導犬ユーザーから、盲導犬との出会い、日常生活の事、旅行の体験談など、貴重なお話を披露していただく。また、子供たちからの「一番困った事は？」、「一番の思い出は？」、「盲導犬が他の犬と喧嘩したらどうするの？」などの質問には、一つ一つ丁寧に回答していただいている。

5年間で訪問した小学校・保育園の数は15、参加した児童・園児らは1,310人になり、小学校では総合学習の時間に組み込むなど、高い評価を受けている。



盲導犬との訓練体験



盲導犬お話し会



盲導犬とのふれあい

■みんなで作ろう折り紙建築

県内の小学生とその保護者を対象に、平成14年度より、「みんなで作ろう折り紙建築」と題した体験イベントを、各地で開催している。

これは、日本の折り紙の繊細さと、立体建築を合体させた「折り紙建築」の制作過程を通して、ものづくりの楽しさを味わってもらい、ひいては建設業の素晴らしさを理解してもらうことを目的とした活動である。折り紙の講師には、海外でも幅広く活躍中の木原隆明氏を招き、これまでに、県内8地区で、延べ576人の参加者を集めている。

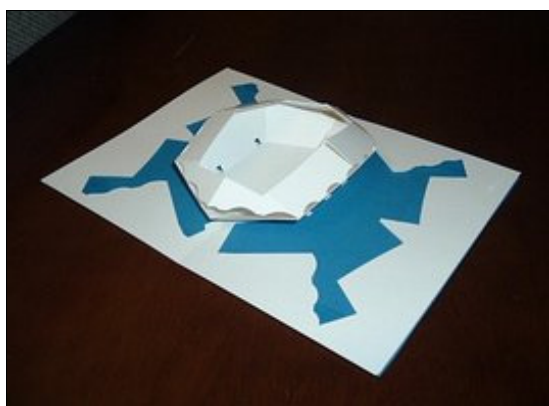
どの会場でも、たった1枚の紙から、無限の造形が生み出される立体折り紙の魅力に、子供も大人も時間を忘れて熱中する姿が印象的である。ちょうど夏休みに入る頃に開催することで、子供たちにとって、お父さん、お母さんと一緒に、ものができ上がる過程を楽しめるとともに、夏休みの宿題のヒントとしても役立つので、たいへん喜ばれている。



木原隆明氏による折り紙講習



みんなで作ろう折り紙建築



折り紙作品（ビッグスワンスタジアム）



折り紙作品（動物）

少子高齢化や男女共同参画社会の形成など、我が国全体の社会構造が大きく変化している中で、当女性部会は、建設業界も、女性が働きやすく定着できる業界となることを願っている。そのためには、女性が得意とするきめ細やかな社会貢献活動を積極的に展開することで、建設業界のイメージアップを図っていくことが大切であると考えている。

「紀美野あさかわの森」による森林保護活動（株）浅川組

（株）浅川組は、トンネル工事見学会に参加した地元小学生の「一枚の作文」をきっかけに、新たに「企業の社会的責任」（CSR）を意識した各種の社会貢献活動に取り組むようになった。

平成 16 年 4 月、同社は地元小学校の児童 24 人を招待して、自社 JV で施工中の「国道 371 号線温川 1 号トンネル」の工事見学会を開催した。

このトンネルは、地元住民が長年待ち望んでいた悲願のトンネルであり、見学会当日は、JV 職員・作業員全員が、「カッコいい働くお父さん」になって奮闘し、記憶に残る 1 日を過ごした。

その後、「一枚の作文」が作業所に届いた。その最後に書かれた「僕も大きくなったらトンネルを掘る人になりたいです。」との言葉に、関係者一同大いに励まされ、勇気付けられ、建設業が地域社会に対して非常に重要な役割を担っている

ことを改めて教えられた。これをきっかけに、同社は、地域交流、環境美化、環境保全などを目的とした、新たな社会貢献活動を積極的に展開することにした。

■消波ブロック絵画大会と海岸清掃活動

平成 17 年 12 月、和歌山港の防波堤築造工事現場において、地元小学校の児童及び父兄約 100 人を招待して、「消波ブロック絵画大会」を開催した。これは、工事で製作した 6 脚柱消波ブロックに、海をテーマとした絵を描いてもらう会で、地元メディアでも大きく取り上げられ、港湾工事の意義をアピールすることができた。

また、平成 18 年 7 月には、和歌山市主催の「瀬戸内クリーンアップ作戦」に参加して、和歌山市加太海岸で、地域住民との交流を兼ねた清掃活動を実施した。



トンネル工事見学会記念撮影

「トンネル工事のおじさんへ」

トンネルに入ると大きな岩がありました。掘っていくのは大変だなと思いました。僕も大きくなったらトンネルを掘る人になりたいです。

児童の「一枚の作文」



消波ブロック絵画大会



加太海岸での清掃活動

■「紀美野あさかわの森」による森林保護活動

平成 19 年、和歌山県が進めている「企業の森」事業を活用して、森林保全活動への取組みを開始した。「企業の森」とは、荒廃した森林を所有者が企業や団体に無償で貸し出し、森林保全活動のフィールドとして活用してもらう事業で、和歌山県が全国に先駆けて始めた事業である。「企業の森」による環境林の整備は、環境保全、CO2 削減とともに、地域の雇用創出、活性化にもつながり、地元住民からも大いに歓迎されている。

平成 20 年 1 月には、「企業の森」候補地の中から、風光明媚でアクセスも良い海草郡紀美野町の山林を選定し、「紀美野あさかわの森」と命名し、きみの（あなたのみんなの）森を育む想いを込めた。

4 月 5 日の植樹式では、紀美野町による町の花「サクラ」の記念植樹に続き、七度かまどに入れても燃えないと言われる「ナナカマド」を、会社の記念樹として植えた。その後、出席者総勢 80 人が、ヤマザクラ、ハナミズキ、ケヤキ、コブシなど、250 本の若木を一斉に植樹した。

また、植樹に先立ち、「紀美野あさかわの森」をデザインしたエコバッグの中に、植樹に必要な軍手・タオル、植樹した木に付ける名札に加えて、紀美野町の地場産品「棕櫚（シュロ）」で作ったミニ箒を入れ、記念品として配付した。

同社は、今後 10 年間にわたって、社員参加による下草刈り、補植を行うことになっており、この「森を守り育てていく活動」を通して、地域社会に根を張って、住民との交流を深め、「地球環境を考える人の輪」を広げようと考えている。



「紀美野あさかわの森」現地



「紀美野あさかわの森」看板



植樹式記念品（エコバッグとミニ箒）



ナナカマドの記念植樹

3. 2 協会・支部等の活動事例

各地の建設業協会や支部・部会は、地震や豪雨等の災害復旧や防災支援を始め、各種催し等による住民とのふれあい、河川・道路清掃や森林保護などの環境美化・保全、地域のパトロールなど、さまざまな社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

平成 20 年度に顕彰した協会・支部等のこうした活動事例の中から、3. 1 で紹介した代表事例のほか、ここでは次の 20 事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A1-01	秋田県	(社)秋田県建設業協北 秋田支部	秋田県豪雨災害の復旧活動
A1-02	群馬県	(社)群馬県建設業協会	台風 9 号による豪雨災害の復旧活動
A1-03	新潟県	(社)新潟県建設業協会 柏崎支部	新潟県中越沖地震における応急復旧活動
A2-02	栃木県	(社)栃木県建設業協会 日光支部	災害対策と砂防関連イベントの開催
A2-03	兵庫県	(社)兵庫県建設業協会 西宮支部	地震津波防災総合訓練の運営支援
A3-01	岩手県	(社)岩手県建設業協会 盛岡支部青年部	地域ふれあいイベントへの参加・協力
A3-02	石川県	(社)金沢建設業協会 青年委員会	中心市街地活性化イベントの開催
A3-03	兵庫県	(社)兵庫県建設業協会 青年部会	「建設ふれあい祭り」の開催
A3-04	島根県	(社)島根県建設業協会 浜田支部	建設会館の立地を活かしたイベント開催
A3-05	徳島県	(社)徳島県建設業協会 徳島支部青年部	建設機械運転体験イベントの開催
A4-01	福島県	(社)福島県建設業協会 石川支部	年間を通じた各種地域奉仕活動
A4-02	岐阜県	(社)岐阜県西濃建設業 協会	「西濃地域河川クリーン作戦」の実施
A4-03	静岡県	(社)沼津建設業協会	道路・河川・海岸の清掃奉仕活動
A4-04	山口県	(社)山口県建設業協会 宇部支部	「道の日」の道路清掃奉仕活動
A4-05	熊本県	(社)熊本県建設業協会	県下一斉ボランティアによる清掃活動
A5-01	神奈川県	(社)神奈川県建設業協 会県央支部	地域巡回パトロールと道路・河川の改善提案
A5-02	愛知県	(社)名古屋建設業協会	「なごや環境大学」共育講座への参画
A6-01	京都府	(社)京都府建設業協会 綾部支部	社会福祉施設での餅つき大会開催
A6-02	熊本県	(社)熊本県建設業協会 芦北支部	工事現場が子供を守る「こどもSOS」活動
A7-02	山口県	(社)山口県建設業協会	地域貢献活動の広報誌「ピラー」の定期刊行

(1) 災害復旧支援活動

協会及び支部等の災害復旧支援活動として、次の3事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A1-01	秋田県	(社)秋田県建設業協会 北秋田支部	秋田県豪雨災害の復旧活動
A1-02	群馬県	(社)群馬県建設業協会	台風9号による豪雨災害の復旧活動
A1-03	新潟県	(社)新潟県建設業協会 柏崎支部	新潟県中越沖地震における応急復旧活動

事例 A1-01 : 秋田県

秋田県豪雨災害の復旧活動（(社)秋田県建設業協会北秋田支部）

平成19年9月16日から翌日にかけて、秋田県内は広い範囲で大雨となり、特に県北部は記録的な豪雨となった。この雨で、北秋田地区では河川が氾濫し、土砂崩れや、農地、道路、住宅の冠水など、これまでにない大きな被害が発生した。

秋田県建設業協会北秋田支部の会員は、雨の降り始めから率先してパトロールに当たっていたが、各所で被害が確認されたため、緊急出動体制を組み、関係機関と連携して応急復旧作業を開始した。その後約1ヶ月間にわたり、延べ2,470人を動員して、道路復旧、住宅の泥土撤去、被災ゴミの片付け等に全力で取り組んだ。



阿仁川氾濫による冠水



路肩崩壊の復旧（比内森吉線）

側溝泥土撤去（阿仁前田地区）

台風 9 号による豪雨災害の復旧活動（社）群馬県建設業協会

平成 19 年 9 月 6 日夜半から 7 日にかけて群馬県を直撃した台風 9 号は、県西部地域を中心に、家屋の倒壊、道路の崩壊、河川の氾濫、土砂崩れなど大きな被害をもたらした。中でも山間部の南牧村では、沢に沿った一本道が寸断され、住民が孤立する事態となり、一刻も早い復旧が求められた。

群馬県建設業協会の会員は、全県下で 1,421 人が前日から待機して、台風へ備えた。各地の被害が明らかになると、会員 139 社から延べ 4,000 人（9 月 18 日現在）が出動して、昼夜兼行の復旧作業に従事した。南牧村においても、悪天候の中、地元会員企業の懸命の応急作業の結果、早期の道路復旧がかなった。

群馬県建設業協会は、平成 8 年に群馬県との間で災害協定（災害応急対策業務に関する基本協定及び細目協定）を締結し、災害時の緊急出動体制を整えてきた。また、平成 15 年には高崎河川国道事務所、平成 19 年には利根川水系砂防事務所との間で災害協定を締結し、災害対策機器の操作訓練や、安全対策に関する研究会に参加している。こうした日頃からの準備が、今回の災害時の迅速な対応と早期復旧につながったといえる。



路床の流出（南牧村）



道路の崩壊（南牧村）



道路の応急復旧作業（南牧村）



法面の応急修復（南牧村）

新潟県中越沖地震における応急復旧活動 ((社)新潟県建設業協会柏崎支部)

平成 19 年 7 月 16 日に発生した「新潟県中越沖地震」は、震度 6 を記録した柏崎・刈羽地域を中心に、大きな被害をもたらした。

新潟県建設業協会柏崎支部は、被災地の管轄支部として一致団結し、地震発生直後から 24 時間の緊急出動体制を組んで、情報収集に当たるとともに、新潟県柏崎地域振興局との災害協定に基づき、迅速な応急復旧活動を展開した。

前回の「中越地震」から 3 年経たずに再び発生した地震に、住民の不安が募る中、支部会員の従業員は、被災箇所の応急復旧をはじめ、避難所への仮設トイレの運搬、倒壊家屋の撤去、二次災害防止のパトロール等に、自らが被災しながらも全力で取り組んだ。特に生活道路の応急復旧は迅速で、「このことがライフラインの早期復旧に大きく寄与した」として、地元紙でも高く評価された。

地域の事情を熟知しているからこそ可能な、会員各社の迅速かつ柔軟な対応が、被災地の復興を早め、地元住民を大いに勇気付けた。



新潟県中越沖地震による道路被害



崩落石の撤去



倒れたブロック塀の撤去



トンネル内泥土の撤去



崩落土砂の撤去

(2) 防災支援活動

協会及び支部の防災支援活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A2-02	栃木県	(社)栃木県建設業協会 日光支部	災害対策と砂防関連イベントの開催
A2-03	兵庫県	(社)兵庫県建設業協会 西宮支部	地震津波防災総合訓練の運営支援

事例 A2-02 : 栃木県

災害対策と砂防関連イベントの開催 ((社)栃木県建設業協会日光支部)

栃木県建設業協会日光支部は、災害に備えて緊急時連絡体制を整備するとともに、砂防関連イベントを開催して、市民の防災意識の高揚に努めている。

■災害対策活動

台風接近時には、地域の幹事会社を中心に、河川や道路のパトロールを行い、支部に状況を報告するとともに、危険箇所への対策を施している。

■砂防関連イベントの開催

6月の土砂災害防止月間には、国土交通省と共催で、「砂防ってな〜に展」を開催し、土砂災害や砂防事業に対する市民の理解と関連知識の普及を図っている。

このイベントは、土砂災害のパネル展示のほか、自然災害体験、工作コーナー、さぼう紙しばい、土石流ゲームなど、家族で1日楽しめる内容となっている。



台風9号接近時の行川パトロール



大型土嚢による通路の確保



「砂防ってな〜に展」キャラクター



流木アートの工作コーナー

地震津波防災総合訓練の運営支援 (社)兵庫県建設業協会西宮支部

兵庫県建設業協会西宮支部は、平成 17 年に兵庫県と、翌年には兵庫国道事務所との間で災害協定を締結し、災害に備えた体制を整備している。その一環として、平成 19 年 10 月には、国土交通省、自治体等の合同開催による「兵庫地区地震津波防災総合訓練」に参加して、道路啓開（緊急輸送路確保）作業訓練を行った。

この訓練は、震度 6 弱～5 強の地震発生を想定し、陥没した道路の発見から、交通規制の実施、陥没箇所の応急復旧、交通開放までの一連の作業を実際に行う訓練である。

西宮支部では、ダンプカー 2 台と作業員 8 人を動員し、事前に幅 1m、長さ 2m の陥没箇所を造って、復旧用の土嚢約 20 袋を準備した。訓練本番では、ダンプカーで土と土嚢を陥没箇所まで運んで、陥没穴を土嚢で塞ぎ、土を被せて締め固め、通行可能状態に復旧した。

兵庫県建設業協会では、万一の災害時に、各支部が緊急かつ迅速に対応できるようにするため、県下各地で開催される防災訓練に、今後も積極的に参加していく考えである。



地震津波防災総合訓練のポスター



土嚢運搬のダンプカー



陥没箇所の応急復旧

(3) 建設業ふれあい活動

協会及び支部の建設業ふれあい活動として、次の5事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A3-01	岩手県	(社)岩手県建設業協会 盛岡支部青年部	地域ふれあいイベントへの参加・協力
A3-02	石川県	(社)金沢建設業協会 青年委員会	中心市街地活性化イベントの開催
A3-03	兵庫県	(社)兵庫県建設業協会 青年部会	「建設ふれあい祭り」の開催
A3-04	島根県	(社)島根県建設業協会 浜田支部	建設会館の立地を活かしたイベント開催
A3-05	徳島県	(社)徳島県建設業協会 徳島支部青年部	建設機械運転体験イベントの開催

地域ふれあいイベントへの参加・協力（社）岩手県建設業協会盛岡支部青年部

岩手県建設業協会盛岡支部青年部は、建設業に対する地域住民の理解と関心を深めるために、各種のふれあいイベントなどに積極的に参加・協力している。

■「いわての馬コは日本一」への参加

毎年6月に開催される盛岡の風物詩「チャグチャグ馬コ」のプレイベント「いわての馬コは日本一」に、実行委員として参画している。これは、盛岡市内に現存する大正期の木造建築遺産「旧馬検場」を舞台に、「馬と盛岡」の歴史を体感するイベントで、青年部員は、半纏、腹掛け、股引、地下足袋の出で立ちで、会場設営、交通整理、人力車や馬の運行などに当たり、会場を大いに盛り上げている。



人力車の乗車体験



親子馬像「春風」の除幕式

■「森と湖 in 綱取」への参加

毎年7月、綱取ダムを会場に、森林浴や植物観察会、巣箱作成、稚魚の放流、ボート巡航等を行う市民イベント「森と湖 in 綱取」が開催される。青年部は、このイベントの企画・運営全般に関わり、盛岡市民や子供たちとの交流を深めている。

■「下水道フェスタ」への参加

(財)岩手県下水道公社は、毎年9月、下水道の普及啓発を目的に「下水道フェスタ」を開催している。青年部は、会場で高所作業車やバックホウの展示と乗車体験を行うことで、地域住民や子供たちに建設業の果たす役割をPRしている。



高所作業車乗車体験



バックホウ運転体験

中心市街地活性化イベントの開催（社）金沢建設業協会青年委員会

金沢建設業協会青年委員会は、平成 18 年度より、金沢の中心市街地活性化イベント「かなざわど真ん中！まちをきれいに親子で昆虫ラリー」を開催している。

これは、親子でゴミを拾いながら金沢市街を歩き、「昆虫」、「建設」、「まち中」をテーマとしたクイズに答えていくもので、平成 19 年度は、新聞等で広く一般参加を募った結果、219 人（昨年の 2 倍以上）が参加する大イベントとなった。

当日は、石川県立生涯学習センターで、カブトムシやクワガタムシの育て方を昆虫博士から教わった後、金沢城公園まで全員でゴミを拾いながらクイズラリーを行った。最後に全問正解者から順番に、カブトムシやクワガタムシをプレゼントされ、子供たちは大喜びであった。

子供たちに夏休みの楽しい思い出を提供し、保護者には「まち中の活性化」について考える機会としてもらうことが、このイベントの狙いであるが、同協会は、今後さらにイベント内容を充実させて、建設業界のイメージアップにもつなげたいと考えている。



昆虫博士による昆虫セミナー



ゴミを拾いながらクイズラリー会場へ



クイズ出題



クイズラリー答え合わせ



カブトムシやクワガタムシの景品

「建設ふれあい祭り」の開催（社）兵庫県建設業協会青年部会

兵庫県建設業協会は、建設業と地域との関わりを重視し、「地域安全まちづくり活動」、「クリーンアップひょうごキャンペーン」、現場実習や見学会、セミナーの受入れなどさまざまな活動によって、地域とともに生きる建設業をアピールしてきた。

平成19年度には、青年部会が中心となって、「夏休み工作大作戦／建設ふれあい祭り」を開催した。これは、小学生木工体験、丸太早切り競争、建設機械試乗体験等を通じて、子供たちにもものづくりの楽しさを知ってもらい、また、建設業を身近に感じてもらうためのイベントである。

同協会では、この「建設ふれあい祭り」を毎年継続するとともに、県下17支部においても、今後同様の活動を実施していく考えで、こうした地域との交流を活発に行うことで、建設業に対する認識がより一層高まり、更にイメージアップにつながっていくことを期待している。



建設ふれあい祭りのチラシ



小学生木工体験



丸太早切り競争



高所作業車試乗体験



パワーショベル試乗体験

建設会館の立地を活かしたイベント開催（社）島根県建設業協会浜田支部

島根県建設業協会浜田支部は、毎年8月に地元で開催される「浜っ子夏まつり」の花火大会の日に合わせて、事務所を構える浜田建設会館に、障害者施設の園生、保護者及び学校関係者を招待している。

浜田建設会館は、港を見下ろす高台に位置し、花火を観るには格好の場所にある。そこで、この立地条件を活かして、花火大会を観に行く機会が少ない障害者や保護者の方々に、花火を満喫してもらおうと、平成18年度から、普段は会員以外利用することのない建設会館を開放することにした。

青年部会が中心となって始めたこの催しでは、花火が始まるまでの間、夏祭りの雰囲気を楽しんでもらうため、パットゴルフやリモコン建設機械でのアメすくいなど、ミニゲームも用意されている。本番の花火大会が始まると、3階のベランダに移動した園生たちは、目前で打ち上げられる花火の迫力に大きな歓声を上げていた。

浜田支部は、毎年の事業計画の重点実施事項として、建設業の社会貢献活動・イメージアップ活動の推進を掲げている。これからも、こうした催しを通じて、地域の基幹産業としての社会的責任を果たすとともに、建設業の存在を身近に感じてもらい、理解を深めてもらおうと考えている。



会議室での懇親会



リモコン建設機械でのアメすくい



ベランダからの花火鑑賞



建設機械運転体験イベントの開催（社）徳島県建設業協会徳島支部青年部

徳島県建設業協会徳島支部青年部は、毎年夏に吉野川の河川敷で開かれる恒例行事「吉野川フェスティバル」に協賛して、その中で「建設機械と遊ぼう」と題した運転体験イベントを開催している。

これは、多くの子供たちが抱いている「大型機械に触りたい、乗りたい、動かしたい」という夢をかなえる好評のイベントで、参加する子供たちは年々増加して、平成 19 年には約 300 人を数えた。

また、関連行事である「吉野川クリーンアップ大作戦」では、市民の憩いの場でもある吉野川下流域で、地域住民とともに大規模な清掃活動を行っている。

若者の建設業離れが進む中であって、こうしたふれあいを大切にした青年部の積極的な活動は、地域住民からも高い評価と賛同を得ており、建設業のイメージアップはもとより、次代の労働力の確保につながる事が期待されている。



吉野川フェスティバル
パンフレット表紙



建設機械の運転体験



高所作業車体験



花火・おもちゃの抽選会

(4) 環境美化活動

協会及び支部の環境美化活動として、次の5事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A4-01	福島県	(社)福島県建設業協会 石川支部	年間を通じた各種地域奉仕活動
A4-02	岐阜県	(社)岐阜県西濃建設業協会	「西濃地域河川クリーン作戦」の実施
A4-03	静岡県	(社)沼津建設業協会	道路・河川・海岸の清掃奉仕活動
A4-04	山口県	(社)山口県建設業協会 宇部支部	「道の日」の道路清掃奉仕活動
A4-05	熊本県	(社)熊本県建設業協会	県下一斉ボランティアによる清掃活動

事例 A4-01 : 福島県

年間を通じた各種地域奉仕活動 ((社)福島県建設業協会石川支部)

福島県建設業協会石川支部では、地域の祭りにおける奉仕活動をはじめ、年間を通じたさまざまな地域奉仕活動を、全ての会員企業が参加して実施している。

■桜並木の提灯設置と河川清掃

4月の「さくらまつり」の前に、提灯の設置と河川の掃除を行っている。

■カーブミラー清掃

7月に、地域の主要道で、カーブミラーの鏡の修正や汚れの除去を行っている。

■道路清掃

8月の「道の日」に、道路のゴミ回収や除草、土砂撤去を行っている。

■道路パトロールとオイルフェンス設置訓練

10月の「地域安全の日」に、道路をパトロールして危険看板の撤去等を行い、また、河川での油流出事故を教訓としたオイルフェンス設置訓練を実施している。



桜並木の提灯設置



カーブミラー清掃



オイルフェンス設置訓練

「西濃地域河川クリーン作戦」の実施（社）岐阜県西濃建設業協会

岐阜県西濃建設業協会は、毎年4月に、大規模な「西濃地域河川クリーン作戦」を実施している。

これは、自然環境の保全とボランティア意識の高揚を図るため、西濃地域の河川敷を一斉に清掃する活動で、8回目となる平成19年は、会員企業の従業員約1,800人と、周辺住民、行政職員等約400人が参加した。

参加者は10班に分かれて、西濃地域を流れる揖斐川、杭瀬川、親犀川など総延長約15kmの河川敷で、空き缶やペットボトル、流木などを拾い集めた。その結果、可燃ゴミ2.5トン、不燃ゴミ2.3トン、冷蔵庫などの家電製品4台を回収し、中には位牌2体も含まれていた。

この活動は、恒例行事として地域に根付き、建設業への理解を深める機会ともなっており、中部地方整備局からは感謝状が贈られた。



西濃地域河川クリーン作戦のチラシ



参加者によるゴミ拾い



回収された粗大ゴミ



中部地方整備局からの感謝状

道路・河川・海岸の清掃奉仕活動（(社)沼津建設業協会）

沼津建設業協会では、管内の各地区で、道路や河川、海岸等の清掃奉仕活動を継続的に実施している。平成 19 年度は、4 月から 11 月にかけて、管内 5 地区で合計 8 回実施し、延べ 350 人が参加した。

沼津地区では、6 月に千本浜海岸で行われた「2007 フェスタ・コスタ・デル・ゴミ in 千本浜」（主催：沼津市）に 80 人が参加して、海岸清掃を行った。また、11 月には、技能五輪国際大会開催を控えた沼津駅北口周辺の一斉清掃に 60 人が参加した。



沼津駅北口周辺の一斉清掃

長泉地区では、4 月に町内全域にわたる河川一斉清掃を実施し、20 人が参加した。

裾野地区では、10 月、市内の 5 団体合同で、県道須山線南外周道など主要道路の一斉清掃を実施し、80 人が参加した。

御殿場地区では、8 月に 40 人が参加して富士山周遊道路の清掃を行い、11 月には 20 人が参加して国道 138 号線の乙女峠、長尾峠付近の道路清掃を行った。

小山地区では、8 月の「道路ふれあい月間」において、「道の駅ふじおやま」周辺歩道の一斉清掃に 30 人、富士山一斉清掃に 20 人が参加した。なお、同地区では、毎年春になると、地元の NPO 法人と合同で、河川上流の崩落や洗掘、施設の破損等を点検する「治山・河川パトロール」を実施している。

同協会は、献血活動等にも毎年積極的に協力しており、こうした社会奉仕活動を継続していくことで、地域とともに生きる建設業の存在をアピールしていこうと考えている。



国道 138 号線での道路清掃



「道の駅ふじおやま」周辺での歩道清掃

「道の日」の道路清掃奉仕活動（(社)山口県建設業協会宇部支部）

山口県建設業協会宇部支部は、毎年 8 月 10 日の「道の日」に、地域の道路清掃奉仕活動を実施している。

平成 19 年には、会員企業全 32 社から約 100 人が参加して、宇部・山陽小野田地区の主要な国道、県道など 40 路線の清掃作業を行った。当日は、最高気温 36 度の猛暑の中、支部長を先頭に、道路脇の側溝に落ちたタバコの吸殻や空き缶、山際のゴミなどを仕分けしながら拾い集めた。

この清掃奉仕活動は、昭和 61 年の「道の日」制定をきっかけに始まったもので、地域の環境美化はもちろんのこと、事故防止や大雨時の冠水防止に役立てるとともに、地域の子供たちに、「自分たちの街を汚してはいけない」という気持ちを持ってもらうことも、目的の一つとしている。

また、同様の考えから、毎年春から夏にかけて、宇部・山陽小野田地区の河川の一斉清掃も実施している。

同支部は、今後も一致団結して、地域社会に貢献するためのさまざまな活動を実践していこうと考えている。



清掃奉仕活動の出発前



県道でのゴミ拾い



河川敷での草刈り

県下一斉ボランティアによる清掃活動（（社）熊本県建設業協会）

熊本県建設業協会は、子供たちが夏休みに入る 7 月に、大規模な県下一斉ボランティアによる清掃活動を実施している。平成 19 年は、県下 11 支部と建築部会、舗装部会から総勢 1,500 人が参加して、各地で道路清掃や除草作業等を行った。

■道路、公園、河川敷等の清掃・除草

熊本支部では、「熊本城築城 400 年記念行事」を控えた熊本城周辺地域と、県道熊本港線で、それぞれ 80 人が参加して、歩道の清掃等を行った。荒尾支部では、約 50 人が市内の自転車専用道路を覆う雑草や枝を刈り取った。その他、8 支部 2 部会で、各地の道路や公園、河川敷、岸壁等の清掃、除草、樹木伐採等を行った。

■道路設備の清掃・点検

菊池支部では、約 200 人が 7 地区に分かれて、カーブミラーの清掃・点検、歩道・側溝の清掃等を行った。鹿本支部、上益城支部においても、カーブミラー、ガードレールの清掃・点検、倒木の伐採等を行った。

■パトロール等

八代支部では、約 100 人が参加して、「不法投棄対策に関する協定」による山中、河川敷等の不法投棄監視パトロールを実施した。上益城支部では、約 160 人が「大規模災害対応マニュアル」に沿って災害危険箇所を調査し、応急対策を施した。

同協会の県下一斉ボランティア活動は、地元メディアでも大きく取り上げられ、建設業の社会的な評価を高める効果も生み出している。



歩道上のごみ収集



道路側溝の清掃



カーブミラー清掃



道路上の倒木伐採

(5) 環境保全活動

協会及び支部の環境保全活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A5-01	神奈川県	(社)神奈川県建設業協会県央支部	地域巡回パトロールと道路・河川の改善提案
A5-02	愛知県	(社)名古屋建設業協会	「なごや環境大学」 共育講座への参画

事例 A5-01：神奈川県

地域巡回パトロールと道路・河川の改善提案（(社)神奈川県建設業協会県央支部）

神奈川県建設業協会県央支部は、「快適なまちづくり提案活動」として、地域巡回パトロールに取り組んでいる。これは、会員が分担して支部管内の道路・河川等を巡回パトロールし、補修や改善が必要と思われる箇所を提案する活動である。

平成19年度には、舗装の劣化やガードレールの損傷、河川堤防の草の繁茂など、合計149箇所の改善提案を行った。平成13年度に開始してからの累計は、パトロール11回、提案643箇所に上る。

提案先の厚木土木事務所からは、「行政の視点では捉えきれないところまで情報が得られる。」として、歓迎されている。また、地域の隅々まで熟知している地元建設業者ならではの活動として、地域住民の期待も大きい。

同支部では、こうした活動と合わせて、河川堤防の雑草を刈り取るボランティアや、イベント会場でゴミの不法投棄防止を訴えるクリーンキャンペーンなど、環境保全と快適なまちづくりに向けて、積極的な活動を展開している。



地域巡回パトロール



河川堤防草刈りボランティア



クリーンキャンペーンでのゴミ袋配布

「なごや環境大学」 共育講座への参画（(社)名古屋建設業協会）

名古屋建設業協会は、「なごや環境大学」における講座の一つとして、建設に関連した「共育講座」を企画・運営している。

「なごや環境大学」は、平成 17 年に名古屋市が中心となって開設した、産官学協働の市民向け環境学習ネットワークで、「まちじゅうがキャンパス」を謳って、毎年幅広い分野の「共育（共に育つ）講座」を設けている。

名古屋建設業協会が担当する年間 4 回の「共育講座」は、建設関連施設の見学会、防災や環境関連のシンポジウム、ワークショップ、エコツアーなど充実した内容で、初年度から好評を博し、リピーターの受講者も増えている。また、平成 19 年からは、講座の一部を「カフェ・コンストラクション」と題して、協会の会議室に受講生を招待している。ここでは、手作り菓子とお茶を楽しむゆったりとした雰囲気の中で、環境に配慮した最新技術や地元建設業者の苦労話などを紹介しながら、市民とのコミュニケーションを深めている。

同協会は、平成 14 年に「社会貢献活動方針」を定めてから、市民に愛され、地域に役立つ建設業を目指して、さまざまな活動を展開してきた。今後もこの「共育講座」を通して、市民の建設業への理解を深めたいと考えている。



高速道路換気塔施設見学



カフェ・コンストラクション案内



リサイクル施設見学



(6) 社会福祉活動

協会及び支部の社会福祉活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A6-01	京都府	(社)京都府建設業協会 綾部支部	社会福祉施設での餅つき大会開催
A6-02	熊本県	(社)熊本県建設業協会 芦北支部	工事現場が子供を守る「こどもSOS」活動

事例 A6-01 : 京都府

社会福祉施設での餅つき大会開催 ((社)京都府建設業協会綾部支部)

京都府建設業協会綾部支部は、毎年12月、社会福祉施設「綾部共同作業所」を訪問して、入所者を交えた餅つき大会を開催している。

「綾部共同作業所」は、体に障害のある入所者が約130人、職員が20人在籍する大規模な施設であるため、餅の材料や用具一式は、全て協会準備して持ち込むことにしている。平成19年には、協会の役職員等16人が参加して、もち米30kgを入所者と一緒に臼でつき上げ、これを合計640個の丸餅ときなこ餅にして、全員で楽しく食べながら交流を深めた。

平成19年で23回目を迎えるこの催しは、作業所の年末恒例の行事として定着しており、入所者はもちろん、その家族、職員の方々も毎年心待ちにされている。また、入所者の「社会参加と自立」に向けた努力を後押しする活動としても、高い評価を受けており、地域住民に対する建設業のイメージアップにもつながっている。



障害者と一緒に餅つき大会



協会役員による餅つき



丸餅・きなこ餅づくり

工事現場が子供を守る「こどもSOS」活動（社）熊本県建設業協会芦北支部

熊本県建設業協会芦北支部は、子供たちを犯罪被害から守るため、平成 19 年度より、「こどもSOS」活動に取り組んでいる。

これは、支部管内に点在する会員企業の事業所、工事現場、工事車両等を、子供たちの緊急時の駆け込み場所として提供し、駆け込みがあった時は、保護・対応する活動である。これらの場所には、目立つのぼりやステッカーを掲示して、駆け込み場所であることを知らせるとともに、犯罪の抑止効果を狙っている。また、子供が助けを求めてきた際の対応マニュアルを作成して、会員に周知するとともに、支部事務局、各企業、警察署、教育委員会等による緊急連絡体制を構築した。

平成 19 年 4 月には、地元自治体、警察署との間で「こどもSOS」活動に関する協定を締結するとともに、「こどもSOS」の旗を立てたトラック 16 台で町内を巡回して、活動をアピールした。

建設業は、年間を通じてさまざまな場所で工事を行っており、特に人家の少ない場所や山間部の工事現場は、防犯活動の拠点として重要な役割を果たすものと考えられる。そうした意味で、建設業による「こどもSOS」活動に、地域住民も大きな期待を寄せている。



「こどもSOS」活動に関する協定書調印式



巡回パトロール出発式



「こどもSOS」対応マニュアル

(7) 建設業の啓蒙・イメージアップ活動

協会及び支部の啓蒙・イメージアップ活動として、次の事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A7-02	山口県	(社)山口県建設業協会	地域貢献活動の広報誌「ピラー」の定期刊行

事例 A7-02 : 山口県

地域貢献活動の広報誌「ピラー」の定期刊行（(社)山口県建設業協会）

山口県建設業協会では、会員の社会貢献活動や人材活用事例等を紹介する広報誌「ピラー」を定期刊行し、官公庁を始め、一般の方々にも広く読んでもらえるよう、県内の図書館や銀行窓口、高校など 1,100 箇所に配布している。

「ピラー」とは、英語で「柱 (Pillar)」を意味し、「柱は、屋根を支え、内なるものを守るもの。建設業は、人々の生活基盤である道路や橋・住まいや働く場をつくり、守っている。支え、守る「ピラー」である事が、建設業の姿である。」との考えが広く浸透することを願って、名付けられたタイトルである。内容は、社会貢献をテーマとした対談をはじめ、災害復旧、防災訓練、環境保全、現場見学・実習、ボランティア等の活動報告が、読みやすくまとめられている。

平成 12 年より毎年発行しており、セミナー、現場見学会、会議等の出席者にも紹介・配布するなどして、積極的な広報活動を行っている。

また、協会のホームページ「山建ネット」にも特集コーナーを設け、過去全てのバックナンバーを公開している。



広報誌「ピラー」第9号

建設業の雇用改善とイメージアップ

(社)山口県建設業協会

ボランティア清掃



建設業のイメージアップを目指して





クリーンアップ作戦

山口県建設業協会のホームページ「山建ネット」(部分)

3. 3 会員企業の活動事例

各地の建設業協会の会員企業は、地域の安全・安心確保が最優先と考えて、災害時の復旧活動では常に中心的役割を果たしています。また、各社の特色を活かした地域とのふれあい活動や、環境美化・保全活動、社会福祉活動も活発に行われています。これらの活動は、地元住民にもたいへん好評で、建設業のイメージアップにもつながっています。

平成 20 年度に顕彰した会員企業のこうした活動事例の中から、3. 1 で紹介した代表事例のほか、ここでは次の 16 事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B1-01	愛知県	(株)服部組	新潟県中越沖地震の災害復旧応援隊の派遣
B1-02	兵庫県	松陽建設(株)	明石海峡での流出油の回収作業
B2-01	愛知県	(株)山田組	地元学区での「地域防災大会」の企画・運営
B3-01	北海道	飛島・勝村・地崎特定建設工事共同企業体	地域のさまざまな行事への積極的参加
B3-02	北海道	宗谷建設青年会	「土木の日」ふれあいイベントの開催
B3-03	青森県	(株)柴田組	ボート競技大会用の競技艇運搬支援
B3-04	宮城県	奥田建設(株)	「蕃山ビオトープ」ホテル観察会の開催
B3-05	群馬県	清滝建設(株)	「ゆびそ塾」雪像祭りでの雪像づくり
B3-06	東京都	前田建設工業(株)	本社施設を開放したアート展の開催
B3-07	広島県	肥海建設(株)	「土木の日」児童絵画コンクールの開催
B3-08	広島県	極東興和(株)	多彩な関係者を招いた現場見学会の継続開催
B4-01	広島県	富士建設(株)	会社幹部による歩道清掃奉仕活動
B5-01	神奈川県	大岩産業(株)	絶滅危惧植物カワラノギクの保護活動
B6-01	北海道	大和建设工業(株)	地域の教育活動へのさまざまな支援
B6-02	神奈川県	(株)山善	「子ども 110 番」運動の展開
B6-03	愛知県	太啓建設(株)	児童下校時の地域防犯活動

(1) 災害復旧支援活動

会員企業の災害復旧支援活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B1-01	愛知県	(株)服部組	新潟県中越沖地震の災害復旧応援隊の派遣
B1-02	兵庫県	松陽建設(株)	明石海峡での流出油の回収作業

事例 B1-01 : 愛知県

新潟県中越沖地震の災害復旧応援隊の派遣 ((株)服部組)

平成19年7月16日に発生した「新潟県中越沖地震」で、柏崎市とその近郊では、住民の生活基盤であるガス、水道等のライフラインに大きな被害が発生した。

(株)服部組(本社名古屋市)は、名古屋市を通じて、被災地でのライフライン復旧の緊急応援要請を受け、直ちにグループ会社とともに水道復旧隊1班、ガス復旧隊3班の応援部隊を編成して、被災地に派遣した。

現地入りした復旧隊は、全域でライフラインが寸断されたまま放置され、二次災害も心配される地区において、真夏の炎天下、3週間にわたり懸命に復旧活動を続けた。この活動によって、被災地のライフラインの復旧は一気に進むこととなり、柏崎市及び地元住民からもたいへん感謝された。



新潟県中越沖地震による道路被害



上水道の応急復旧



ガス応急復旧作業



ガス応急復旧隊のメンバー

明石海峡での流出油の回収作業（松陽建設（株））

平成 20 年 3 月 5 日、明石海峡で発生した 3 隻の大型船舶の衝突事故によって、周辺海域に大量の油が流出する事態となった。3 月は海苔の生産シーズンであり、流出油による漁業被害を最小限に止めるためにも、早急な対応が迫られた。

松陽建設（株）は、所属する兵庫県建設業協会可印支部からの第一報を受けて、いち早く作業員 12 人、作業船 2 艘を動員し、流出油の回収作業に加わった。

周辺漁港に向かう潮の流れを考慮して、回収地点を明石市中崎のベランダ護岸近辺と定め、オイルフェンスを設置し、流出油及び浮遊物の収集を開始した。収集した油は、吸着マット等で回収し、小型船にて移送・撤去した。回収した油及び浮遊物の量は 1,000 トンに上った。

兵庫県建設業協会は、県下 17 支部において、各県民局（土木事務所）と災害協定を締結しており、万一の災害時には、会員による迅速な対応が可能となるよう、緊急連絡体制を整備している。今回の油流出事故は、結果として、海苔の収穫や、春を告げる「イカナゴ漁」に大きな影響を与えたが、こうした災害時における、建設業の迅速な対応と献身的な努力は、自治体関係者をはじめ地域住民からも、高く評価されている。



オイルフェンス設置



オイルフェンスによる回収油の移送



回収油の撤去

(2) 防災支援活動

会員企業の防災支援活動として、次の事例を紹介いたします。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B2-01	愛知県	(株)山田組	地元学区での「地域防災大会」の企画・運営

事例 B2-01：愛知県

地元学区での「地域防災大会」の企画・運営（(株)山田組）

(株)山田組は、地域に根ざす建設業者として、災害時の復旧活動はもちろんのこと、日頃から防災・減災の面でも役割を果たすべきであると考え、平成 17 年度より、地元の中学校学区を対象とした「地域防災大会」を企画・運営している。

「地域防災大会」では、区役所、消防署、自治会、NPO法人等の協力のもと、防災講演、防災用品の展示とともに、炊き出し体験、避難所体験、防災運動会等の多彩な体験プログラムが用意され、参加者にとって貴重な経験となっている。

災害に対する地域住民の意識高揚を目指す「地域防災大会」は、地元の関係機関からも高く評価されており、この活動を創めた会社に対して、平成 19 年 1 月に名古屋市中川消防署、平成 20 年 1 月には愛知県中川警察署から感謝状が贈られた。



炊き出し体験



防災運動会での搬送リレー



避難所間仕切りセットの展示



名古屋市中川消防署からの感謝状

(3) 建設業ふれあい活動

会員企業の建設業ふれあい活動として、次の8事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B3-01	北海道	飛島・勝村・地崎特定建設工事共同企業体	地域のさまざまな行事への積極的参加
B3-02	北海道	宗谷建設青年会	「土木の日」ふれあいイベントの開催
B3-03	青森県	(株)柴田組	ボート競技大会用の競技艇運搬支援
B3-04	宮城県	奥田建設(株)	「蕃山ビオトープ」ホテル観察会の開催
B3-05	群馬県	清滝建設(株)	「ゆびそ塾」雪像祭りでの雪像づくり
B3-06	東京都	前田建設工業(株)	本社施設を開放したアート展の開催
B3-07	広島県	肥海建設(株)	「土木の日」児童絵画コンクールの開催
B3-08	広島県	極東興和(株)	多彩な関係者を招いた現場見学会の継続開催

地域のさまざまな行事への積極的参加（飛島・勝村・地崎特定建設工事共同企業体）

北海道紋別郡雄武町でダム建設工事を行う飛島・勝村・地崎特定建設工事共同企業体（代表者：飛島建設(株)東日本支社）は、平成 10 年の着工以来、長期にわたり、町内のさまざまな行事に積極的に参加することで、地域に溶け込んでいる。

■町内の清掃活動等

毎月 1 回、町内のバス停、道の駅周辺で清掃・草刈り・除雪作業を行い、冬期は、交差点や横断歩道で滑り止めの砂を散布している。また、雪解けの 6 月には、ダム下流域で河川清掃を行っている。



横断歩道での砂散布

■祭りでの運営協力

毎年 6 月の「おうむ産業観光まつり」で、会場設営やゴミの分別・収集を担当している。



オホーツクサイクリング大会の沿道応援

■サイクリング大会での沿道応援

雄武町を起点として毎年開催される「オホーツクサイクリング大会」で、地元の人々とともに沿道応援をしている。

■町の植栽事業への参画

「雄武町きらめき我が町事業」の実行委員会メンバーとして、道路花壇の整備、苗植え、維持管理等を行っている。

■その他

平成 19 年 6 月、網走西部森づくりセンター主催の道有林 100 周年記念の植樹祭に参加して、植樹作業を行った。また、毎年恒例の町内ソフトボール大会や、春の交通安全運動にも積極的に参加している。

町内に自然な形で溶け込んでいる共同企業体のこうした取組みに対して、平成 20 年 2 月には雄武町長より感謝状が贈られた。



国道の花壇への苗植え



雄武町長からの感謝状

「土木の日」ふれあいイベントの開催（宗谷建設青年会）

宗谷建設青年会（構成員：藤建設(株)他 31 社）は、毎年夏に「土木の日」を設けて、地域の子供たちを対象としたふれあいイベントを開催している。

平成 19 年には、約 300 人の来場者を集めて、子供たちに大人気の木製建設機械組立キットの配布、お面を型枠代わりにしたモルタルレリーフづくり体験、カブトムシが景品の砂場宝探し、建設機械の試乗体験、建設機械のプラモデルなどが当たる抽選会等を行った。同時に、管内の公共事業を紹介するパネルを会場に展示し、公共事業と建設業に関するアンケート調査を実施した。

なお、飲食販売の収益金は、8 月にロシア・サハリン州で発生した地震の義援金として、稚内市を通じて寄付した。

子供たちに建設業に親しんでもらうとともに、公共事業と建設業について広く PR する目的で、平成 2 年に始めたこのイベントは、参加者も年々増加しており、宗谷地域の短い夏の恒例イベントとして定着している。



建設機械組立キットの配布



モルタルレリーフづくり体験



カブトムシが景品の砂場宝探し



パワーショベル試乗体験



高所作業車試乗体験

ボート競技大会用の競技艇運搬支援（株）柴田組

（株）柴田組は、青森県内外で行われるボート競技大会において、競技用ボートの運搬と会場の整地作業等を、ボランティアで引き受けている。

このボランティアのきっかけとなったのは、昭和 49 年 5 月の第 8 回青森県高校漕艇選手権大会の際、地元高校生が競技艇を回送する途中で遭難し、生徒 3 人が死亡した痛ましい事故である。この事故を憂慮した同社は、翌月に開催された第 9 回青森県高校総合体育大会における競技艇運搬の支援を申し出た。以来今日まで、県内で行われる全てのボート競技大会で、競技艇の海上運搬からトラックによる陸上運搬まで、全てを同社が引き受けている。

また、東北ボート選手権大会、国民体育大会東北ブロック大会などでは、県外での運搬も行っており、平成 20 年春までの運搬回数は、県内外合わせて 121 回を数えている。

同社は、ボートの運搬の他にも、大会会場の整地等の土木作業を無償で行うなど、ボート競技大会にとって欠かせない存在となっており、大会関係者からも深く感謝されている。

なお、昭和 60 年 5 月には、青森県の漕艇界の発展に寄与した功績により、青森県漕艇協会から感謝状が贈られた。



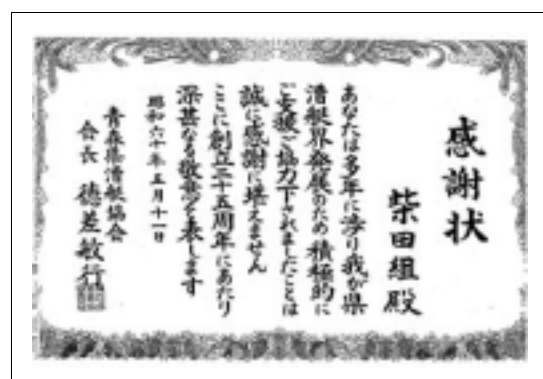
競技用ボートの積み込み



トレーラでのボート運搬



ボートコースでの荷降ろし



青森県漕艇協会の感謝状

「蕃山ビオトープ」 ホタル観察会の開催（奥田建設（株））

奥田建設（株）は、仙台市西部の蕃山（ばんざん）のふもとにビオトープを構築し、ホタル観察会など、地域の人々が自然とふれあう機会を提供している。

蕃山は、さまざまな野鳥や昆虫をはじめ、キツネやニホンカモシカも姿を見せる豊かな自然環境が残る里山である。この蕃山北麓の社有地 13,500 坪を活用して、地域の人々に自然保護の大切さを伝えたいと考えた同社は、平成 14 年、NPO 法人「広瀬川の清流を守る会」と連携して、ホタルが生息できるビオトープの構築を開始した。下草刈り、広葉樹の植樹、沢や池の復活など、社員が休日返上で造成作業を行い、開所式では、地域住民とともにホタルの幼虫やカワニナを放流した。

このビオトープにおける自然観察の取組みとして、平成 15 年から毎年ホタル観察会を開催し、これまでに 3,000 人を超える参加者を集めている。

当初は、社内に設置した育成装置でホタルの幼虫を飼育し、ビオトープに放流していたが、4 年目を迎えた平成 19 年、初めてホタルの自生を確認できた。

また、平成 16 年からは、ビオトープ内で飼育したカブトムシの採取会を開催している。子供たちに人気が高く、4 年間で 7,000 人を超える参加者が、6,000 匹以上のカブトムシを採取した。

同社は、環境保全や地域振興を目的とした CSR 活動を重視し、地域の清掃活動にも熱心に取り組んでおり、今後もこうした活動を充実させることで、企業価値を高めたいと考えている。



蕃山ビオトープのイメージ



ホタルの幼虫とカワニナの放流



ホタル観察会



カブトムシとふれあう会

「ゆびそ塾」雪像祭りでの雪像づくり（清滝建設（株））

清滝建設（株）は、地元のみなかみ町湯桧曽地区において、毎年2月に開催される「ゆびそ塾」の雪像祭りで、雪像づくりの奉仕作業を行っている。

「ゆびそ塾」は、群馬県の「まちうち再生総合支援事業」を活用して、湯桧曽地区の住民が地域活性化のために結成した組織である。

同社は、「ゆびそ塾」からの要請を受けて、平成15年より、雪像祭りでの雪像キャラクターの選定、雪の運搬、雪像製作を担当している。

平成19年度は、「トトロ」、「ねこバス」、「ゆうまちゃん（群馬県のマスコットキャラクター）」の三体の雪像と、滑り台を製作した。

雪像製作は、約10人で5日間程度の作業であるが、途中で雪が融けないような工夫が必要で、また、白一色とするため、立体感を出すのが難しい。毎年苦勞しているが、地域の子供たちの喜ぶ顔が、何よりの励みとなっている。



「ゆびそ塾」の雪像祭り案内



雪像全景



「トトロ」と「ゆうまちゃん」



「ゆうまちゃん」（群馬県のマスコット）



「ねこバス」

本社施設を開放したアート展の開催（前田建設工業（株））

前田建設工業（株）は、毎年2月から3月にかけて、光が丘の本社施設を開放して「光が丘 J. CITY アート展」を開催している。

このアート展は、日本人が本来持つ豊かな感性や創造性、そして手先の器用さを活かしたものづくりの喜びを、子供たちに伝えたいとの趣旨で始まり、賛同した教師や地元住民、ボランティア、団体・企業によって、企画・運営されている。

3回目の開催となる平成20年には、近隣の学校や福祉施設など44団体から集められた絵画や木工作品など529点が展示された。また、土日には、子供たちによるコンサートやワークショップも開催され、地域の人々を楽しませている。

同社は、当初からアート展への施設提供と運営に関わっていたが、現在では、近隣の学校関係者とともに企画段階から参画している。

「賞が取れない子供たちにも発表の場を」と始まったこの取組みは、毎年新しい企画が用意され、参加者も年々増加して、今では地域の人々にとって欠かせない恒例イベントとなっている。



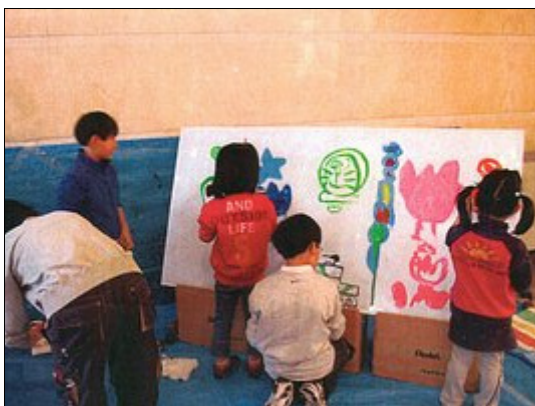
アート展案内看板



絵画作品展示



木工作品コーナー



「らくがき」コーナー



地元の小学生による合唱コンサート

「土木の日」児童絵画コンクールの開催（肥海建設（株））

肥海建設（株）は、毎年11月18日の「土木の日」に、地域の子供たちを対象とした絵画コンクールを開催している。

これは、小学生以下の子供たちに、建設工事を題材とした絵画を描いてもらい、その中から、優秀な作品を選んで表彰するとともに、全作品を地元の大型商業施設等で展示して、広く地域の人々に見ていただくイベントである。

16回目となる平成19年度には、地域の子供会、幼稚園等を通じて、道路工事、河川工事、水道工事などを描いた作品約350点が寄せられた。11月17日に本社で行われた表彰式では、児童や保護者など約100人の出席のもと、最優秀賞2人、優秀賞5人、佳作14人、努力賞24人が発表され、表彰状と記念品が手渡された。全ての応募作品は、本社会議室での展示の後、地元の大型店舗の展示フロアで、「土木の日記念絵画作品展」として10日間展示された。

地域の人々に建設業への関心と理解を深めてもらい、より身近に感じてもらうと始めたこのイベントは、子供たちにとって秋の楽しみの一つとなっており、学校関係者をはじめ地域住民からも高く評価されている。



絵画コンクール表彰式



表彰式に詰めかけた児童と保護者



表彰状と記念品の贈呈



地元大型店舗での作品展

多彩な関係者を招いた現場見学会の継続開催（極東興和（株））

極東興和（株）は、自社施工の尾道・松江自動車道後山高架橋上部工事において、公共事業の意義と建設業の重要性を広くアピールするために、積極的に現場見学会を開催した。

見学会は、工事の最盛期である平成19年7月から平成20年3月までの9ヶ月間で22回開催し、参加人数は延べ250人に上った。参加者の顔ぶれは、国土交通省や自治体関係者のほか、長田地区婦人会を初めとする地域住民、作文コンクール入賞者、中国新聞やケーブルテレビのメディア関係者など多彩である。また、11月の「土木の日見学会」では、一般公募の25人を招待した。

それぞれの見学会では、参加者に合わせたリーフレットや技術資料、掲示物を用意して、尾道・松江自動車道の事業目的や、橋の機能、施工方法等について、分かりやすく説明した。いずれも充実した内容であったとの評価をいただいている。

後山高架橋上部工事は、高さ30mの橋脚上部から、やじろべえのようにバランスを取りながら左右同時に橋げたを張り出していく「カンチレバー工法」を採用しており、技術的な注目度が高い工事である。見学会では、橋脚上部から張り出した箱型の橋げた内部を歩いてみるなど、参加者にとって貴重な体験となった。



作文コンクール入賞者見学会（8月）



長田地区婦人会見学会（9月）



土木の日見学会の参加者募集記事



土木の日見学会（11月）

(4) 環境美化活動

会員企業の環境美化活動として、次の事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B4-01	広島県	富士建設(株)	会社幹部による歩道清掃奉仕活動

事例 B4-01 : 広島県

会社幹部による歩道清掃奉仕活動 (富士建設(株))

富士建設(株)は、会社幹部による歩道の清掃、河川敷一斉清掃、堤防の安全点検への参加など、地域の環境美化・保全活動に積極的に取り組んでいる。

■会社幹部による歩道清掃

社長を先頭に、役員、幹部らが参加して、会社に面する国道2号線の約1.4km区間の歩道を、2ヶ月に1回のペースで清掃している。平成19年度は6回実施し、延べ52人が参加した。

自分たちの街は自分たちの手で綺麗にしたいとの思いで始めた活動であるが、最近では、そうした思いが地域住民にも伝わり、国道沿いの店舗前の歩道は、各店舗が自主的に清掃するようになった。

■河川敷一斉清掃

毎年7月に、土木部職員全員で、福山市内の芦田川右岸河川敷の一斉清掃を実施している。平成19年度は、14人が参加して、山手橋～神島橋の約1.1km区間でゴミの収集を行った。

■堤防の安全点検

梅雨や台風の時季を控えて、毎年6月に実施される芦田川堤防の安全点検(主催:福山河川国道事務所)に、社内の防災エキスパート認定者がボランティアで参加している。平成19年度は、延長5.0kmに亘って堤防のくぼみ等を調べ、決壊の恐れがないかチェックした。



会社幹部による歩道の清掃



芦田川河川敷の一斉清掃

(5) 環境保全活動

会員企業の環境保全活動として、次の事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B5-01	神奈川県	大岩産業(株)	絶滅危惧植物カワラノギクの保護活動

事例 B5-01 : 神奈川県

絶滅危惧植物カワラノギクの保護活動 (大岩産業(株))

大岩産業(株)は、地元小学校による絶滅危惧植物カワラノギクの保護活動に積極的に協力している。

地元の上依知小学校では、総合学習としてカワラノギクの保護に取り組んでおり、カワラノギクがどうして激減したのか、どうしたら増やすことができるのかを調べるため、学校近くの河川敷に苗を植えて、カワラノギクの育つ環境を観察してきた。しかし、大半は秋までに枯れてしまうため、十分な観察ができなかった。

この話を聞いた同社は、カワラノギクの生育環境を整えるために、保護区の土壌改良を行うとともに、4月の苗の植替えから、生育を妨げるアメリカセンダン草の除草作業まで、小学生の保護活動に全面的に協力することにした。

その結果、苗は順調に育ち、10月の成長期には児童たちによる生育発表会も行われ、カワラノギクの保護に向けて、今後の成果が期待できるようになった。



カワラノギク保護区の土壌改良



苗の植替え



カワラノギクの観察



小学生の観察日記より

(6) 社会福祉活動

会員企業の社会福祉活動として、次の3事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B6-01	北海道	大和建设工業(株)	地域の教育活動へのさまざまな支援
B6-02	神奈川県	(株)山善	「子ども110番」運動の展開
B6-03	愛知県	太啓建設(株)	児童下校時の地域防犯活動

事例 B6-01 : 北海道

地域の教育活動へのさまざまな支援（大和建设工業(株)）

大和建设工業(株)は、地域住民との交流を深めるために、自社の工事現場周辺の教育機関に対して、図書や寄贈などさまざまな支援を行っている。

■児童及び生徒用図書の寄贈

小中学校4校（平成19年度）に対して、生徒たちの希望する図書を寄贈した。

■保育園・幼稚園のグラウンド等整備

遠別保育園と遠別幼稚園において、砂場の砂の入替え、遊具の整備等を行った。

■教育委員会へのベンチ寄贈

屋外イベント用の折り畳み木製ベンチ5脚を、幌延町教育委員会に寄贈した。



遠別小学校への図書の寄贈



遠別小学校からの感謝状



遠別保育園のグラウンド整備



幌延町教育委員会へのベンチ寄贈

「子ども 110 番」運動の展開（(株)山善）

(株)山善は、子供を巻き込む事件や事故を防止し、地域の子供たちを地元企業の力で守る「子ども 110 番」運動を展開している。

これは、同社の社屋、現場事務所、営業車等に、「子ども 110 番」の看板やステッカーを掲示して、子供たちが万一の場合の駆け込み場所とすることで、子供たちの安全を確保し、犯罪の抑止を図ろうと、平成 18 年度から始めた活動である。

活動を進めるに当たっては、万一の場合を想定した緊急時マニュアルを作成し、社員及び取引先関係者による対応訓練を実施するとともに、地元小中学校の児童・生徒・PTA への啓蒙活動を行った。また、行政や警察等にも活動への協力を要請して、地域ぐるみの防犯ネットワークを構築している。

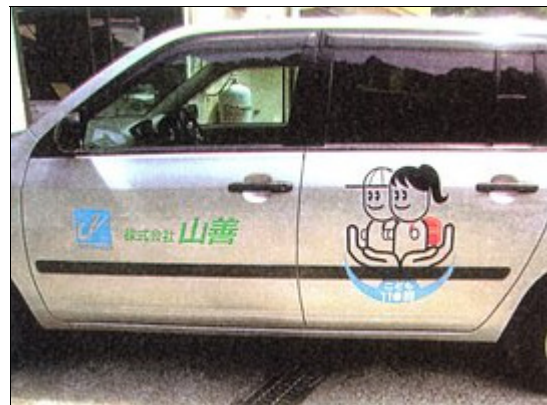
今後は、定期的な対応訓練や、マニュアルの見直し、ステッカーデザインの変更など、さらに効果的な活動とするために改善していく考えである。

なお、この「子ども 110 番」運動は、CCI 神奈川（神奈川県魅力ある建設事業推進協議会）の平成 18 年度建設ステーション元気アップコンテストで表彰された。また、平成 17 年度の同コンテストでは、同社が自社所有地を活用して、清川村おやじの会とともに展開している花いっぱい運動が奨励賞を受けた。

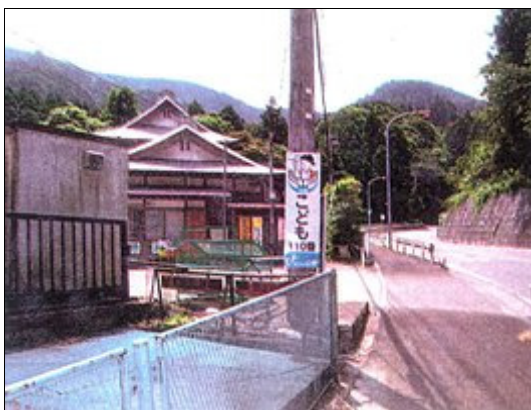
同社のこうした活動は、地域の人々とのコミュニケーションを深めることに大いに役立っており、建設業のイメージアップにもつながっている。



山善本社の「子ども 110 番」看板



営業車の「子ども 110 番」ステッカー



現場事務所前の「子ども 110 番」看板



花いっぱい運動「おやじの花畑」

児童下校時の地域防犯活動（太啓建設（株））

太啓建設（株）は、地元小学校の児童下校時に、子供たちを事件や事故から守る防犯活動を行っている。

最近、子供が事件や事故に巻き込まれて、命を亡くしたり、怪我をするという悲しい出来事が各地で多発して、社会問題化している。日頃から安全・安心なまちづくりを目指している同社は、子供たちをこうした事件や事故から守ることは、地域に根ざした企業の使命であると考え、平成 18 年 7 月、地元の梅坪小学校の児童を対象に、この防犯活動を開始した。

現在の活動グループは、4 人編成の 5 班に分かれて、一斉下校の場合は月・木曜日、低学年下校の場合は火・水・金曜日と、原則週 2 回、通学路の危険箇所でのぼりを掲げて、子供たちを見守り、注意を喚起している。

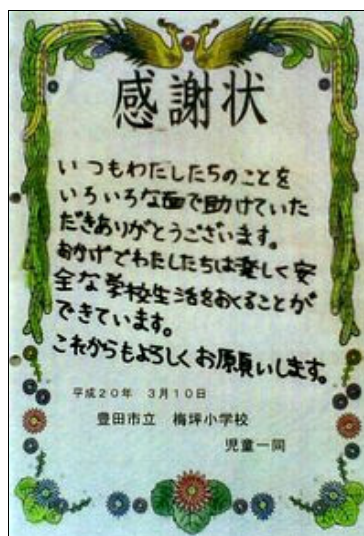
この活動に対して、平成 20 年 3 月には、梅坪小学校の児童一同から感謝状を贈られた。また、同年 4 月には、地元テレビ局の報道番組で取り上げられるなど、企業の従業員が地域住民の一人として参加する、地域に密着した活動として注目されている。



下校時の防犯活動



横断歩道での安全確保



梅坪小学校児童一同からの感謝状